祭りを支える９つの町組

民間の火消組「臥煙組」を組織する６町組に、昭和７年に吉小路組、12年に城内組、38年に駅前三町組が加わり、以後９つの町組が屋台を出して日高火防祭を支えている。各町組は、町内で「年番」と呼ばれる当番を決め、祭りの運営に当たってきた。そこには、町内会組織の固い結束と、代々受け継がれた伝統の祭りを絶やすまいという心意気がある。

時代の変化がもたらすもの

昨年、１町組が登場者不足により屋台運行を断念。３００有余年の歴史の中で前例のないことだった。

各町組とも、市内外から参加者を募って登場者を確保している現状だが、祭りを一緒に作り上げていくことで、地域を超えた交流やつながりが生まれると期待する声もある。

水沢の旧市街の祭りから奥州市の祭りへ。時代に合わせた変化が求められている。

町組 九つの思い

祭り本番に向けて動き始めた各町組に
それぞれの現状と思いを聞いた――

奥州市としての一体感をつくり出す祭りに

駅前三町組　年番長

小野 孝男 さん(75)

商店街という土地柄、屋台に登場するほとんどが地域外の子どもたちです。江刺区や胆沢区からも参加していますが、地域に関係なく、すぐに仲良くなって一緒に練習していますし、数年続けて登場する子もいます。参加することで日高火防祭を「自分のお祭り」と感じて、市が一つになるきっかけになっていけばうれしいですね。

ことしは、参加する町組や親御さんたち全員が同じものを着られるように、はんてんを新調しました。みんなで一つになって祭りを盛り上げましょう。

■連絡先＝佐々木（☎ 090-3365-3994）

古式ゆかしい伝統の祭りにぜひ参加を

横町組　年番長

荒川 佳生 さん(62)

昔からの商家が多い横町では、全国に誇る日高火防祭に情熱を注ぎ、地域が一丸となって伝統を守ってきました。陣羽織を着た棟梁の拍子木の合図で、「火消し木遣り唄」と共に屋台が運行を始める、古式にのっとった一連の所作や音律は一見の価値があります。

10年ほど前までは、登場者は地元の子どもたちが多かったですが、今では姉体や真城地区などからも登場していただいています。練習は明るく楽しい雰囲気で行っていますので、子どもたちもなじみやすいと思います。

■連絡先＝佐々木（☎㉓ 2426）

参加者でつくり上げ記憶と形が残る祭りへ

川口町組　年番長

及川 工 さん(68)

町域が狭く高齢者が多くなっている中で、不断町東・西、勝手町行政区のほか、佐倉河地区や市外からの応援もあり、とても感謝しています。何年も続けて来る人がいるほど魅力ある祭りです。町組としても、祭りでつながる人たちが笑顔で楽しく過ごせるよう精一杯努力しています。

「混ぜてけろ」と声を掛けていただければ本当にうれしい。伝統を守りつつ参加しやすい形に変えられるところはまだまだあるはず。みんなで参加してつくり上げる祭りにしていきたいです。

■連絡先＝及川（☎㉔ 3346）

“見る”から“参加する”へ祭りの広がりに期待

袋町組　常年番

小澤 孝男 さん(79)

「押すな！押すな！」と駅前が見物客で溢れたのは何十年も前のこと。運行する側も年配が多くなり、一緒に歩くのも大変だという人も出てきています。祭りの主役である登場者も、町組という単位では確保できない時代になりました。見ていただくだけでなく、市内外から多くの方に参加していただける祭りになればと思います。

祭り当日はもちろん「笠越」と呼ぶ翌日の打ち上げも大いに盛り上がります。親子での参加も大歓迎。まずはお近くの町組に声を掛けてみてください。

■連絡先＝片ヶ瀬（☎㉓ 4242）

脈々と受け継いで思い出が生きる祭りに

立町組　常年番長

佐々木 勲 さん(80)

「先達が続けてきた祭りを途切れさせてはいけない」という思いで、町組も親から子へと受け継いできました。少子化や生活スタイルが変わって登場者が減少する中、参加してくれる子どもたちには、300有余年続いてきた祭りを後世に伝える役目を担っていることを自覚し、誇りに思ってほしい。

祭りがある地域に暮らしているのだから、アパートにお住まいの方にも参加していただければうれしい。見たり参加したりした良い思い出が、地域や奥州市への愛情につながると思います。

■連絡先＝及川（☎㉓ 5260）

～町印とは～　水沢城主が民間火消組の組織化に合わせ「仁心火防定鎮」（文字の順諸説あり）の６文字を各町組に与え、消防の旗印にしたものといわれている。「仁心を以って火防定鎮す」という読み方には、和と協の精神を基に消防の心構えが伝えられている。町印のない３町組に対しては、平成19年に儒教の理念をもとに義・礼・智の文字が日高神社から与えられた。ばやし屋台前面に飾られた文字は、奥州大使である清水寺（京都府）の森清範貫主が揮毫したもので、祭りの伝統継承と発展への願いが込められている。

立町組「心」

吉小路組「智」

柳町組「火」

駅前三町組「義」

横町組「定」

大町組「防」

城内組「礼」

川口町組「仁」

袋町組「鎮」

伝統を守りながら市が一体になる祭りへ

吉小路組　常年番長

坂本 至正 さん(89)

日高火防祭の原点は防火・防災であり、吉小路組が参加するきっかけも、当時火事が多かった町内の防火を祈願してのこと。「やってやろう」という地域の心意気がありました。

これからは、地域を主体としつつも市民が一体となって参加できるように、町組同士が協力して登場者を募ったり、地元企業の参加を呼び掛けてみてはどうでしょうか。現在、登場者のほとんどは他の地域から来ていただいた方です。伝統を守りながらも、みんなで祭りを盛り上げていきましょう。

■連絡先＝阿部（☎ 090-6455-3130）

多くの参加で次の世代への継承を

柳町組　年番長

小野寺 哲也 さん(64)

水沢の火消組の創始者・佐々木佐五平が住んでいたとされる柳町でも、屋台に登場する子どもが少なくなってきています。最近は市内全域から参加していただけるようになり「ありがたい」と常に思っています。どこまでお返しできるか分かりませんが、練習風景などを写真に残し差し上げています。

日高火防祭は、続けていくべき素晴らしい祭り。そのためにも参加しやすい土台作りが必要だと感じていますし、若い人たちや地元企業・学校などからもどんどん参加してもらいたいです。

■連絡先＝石川（☎㉓ 2442）

祭りを通じた交流で奥州市を一つに

大町組　年番長

高橋 惇夫 さん(72)

ここに生まれ育った宿命だと思い、誇りを持って祭りの運営に携わっています。何より、祭りに活気がないと街も活気づきませんし、地域の交流も少ないように感じます。市内各地の祭りに相互に参加していき、奥州市として一つになれれば良いですよね。

何年か前には、外国の方が三味線で登場したこともありますし、国際交流にもつながるのではないでしょうか。市を代表する伝統のお祭りですので、参加を考えている方には、ぜひ連絡していただきたいです。

■連絡先＝大坂（☎㉓ 2039）

祭りを通じて人のつながりを育む

城内組　年番長

高橋 四郎 さん(77)

伝統ある祭りにかかわる町組として「できる限りのことを」と模索しています。城内組は大手町東・西と川原小路での年番制をやめ、毎年３つの行政区が一緒に祭りを運営するようになってことしで３年目。祭りの参加者同士のつながりが生まれ、結束も深まっていると感じています。

日高火防祭の屋台は“子どもの時しか出られないもの”。一度出れば「次も出たい」という子も多いです。運営側も一緒になって楽しい祭りにしますので、ぜひ参加してほしいです。

■連絡先＝佐藤（☎㉒ 4231）